



赤石澤亜紗美さん (飯樋町)

お子さんはどんな大人になって欲しいですかと聞くと、じつくりと考えてから「おもいやり、協調性のある子に育って欲しいですね」と答えてくれた亜紗美さん。「本当はもっとたくさんあるんですけどね」と笑いながら見つめる先には息子の彪くん。満面の笑顔で「お母さんの作るご飯が大好き」と話す姿には、母の愛情がしっかりと伝わっていました。「子育てには悩みや不安はもちろんなある。だからこそ、子どもと過ごす時間を大切に、楽しい時間をたくさん作っていきます」。



つくってたべよう

やまゆり保育所大人気メニュー

「五目納豆」

(材料)

- ・納豆 + 納豆のタレ… 3コパック×1束
- ・豚ひき肉 …… 100 g
- ・ねぎ …… 1本
- ・かまぼこ …… 1個
- ・ピザ用チーズ … 適量

(作り方)

- ①ねぎは小口切り、かまぼこはさいの目切り
- ②豚ひき肉、ねぎをフライパンでしっかり火を通して炒める。
- ③納豆と用意した材料を良く混ぜ、納豆のタレも加えて更に混ぜる。
- ④冷めたら、最後にピザ用チーズを加えてできあがり♪

ポイント

- 野菜を細かく刻んで入れると、野菜嫌いな子でも食べられます。
- 味が薄いようなら、しょうゆなどを加えて調整してください。
- やまゆり保育所の子どもたちに大人気メニュー、ぜひご賞味ください。

こころのぽけっと

「足し算」から「引き算」の暮らしへ

2011年3月11日、日本人にとって忘れられない日になってしまいました。私たちは余りにも多くのものを失ってしまいました。残念で悔しくてなりません。一方で何か少しでも得るものがなかったらどうするかと考えてみました。多くの方々の特段のご理解を得て、仮設焼却炉が動き出し、また建つことにもなりました。今村では「屋内のもえる物」の処分が進められています。時々帰っての片付けが大変。1回ではとても片付かない「家の中がさっぱりしてとても助かった」等の声が聞かれます。日本人は、戦後の経済成長の過程でより多くのモノを持つことで夢を叶えてきました。みんながモノを買った世の中の景気はますますよくなってきたのです。

一方で「モノを捨てる」ことがタブーの日本人特有の気質があり「もったいない」「いつか使うはず」ということで家中、モノがあふれてきたということも事実でありましょう。したがって、片付け方や収納の仕方が売れているようです。

この災害で痛い程、分かったことは「何でもない日常がいかにもありがたいか」という実にシンプルな事実でした。生きることに必要なものに「モノ」もありませんが、それ以上に「家族」や「社会のしくみ」などが大切だということがわかった訳です。

焼却は「放射能で心配なモノを片付ける」ということではありませんが、一方で「足し算する暮らし」から「引き算する暮らし」に切り替える機会に気づくことが、あってもいいのではないかと気がしてきました。いや、むしろ日本中、そう変わっていかないと私たちのこの避難生活はムダになりそうな気がしてなりません。片付けしながら「丁度、程よく持つことこそ、一番富んでいる」と、この機会に考え方を考えていこうと思つたところです。

平成26年11月25日 飯館村長 菅野 典雄

までいなる復興計画 村民の声を具体化へ



▲具体性のある計画策定が求められている推進委員会

推進委員会での意見 一部、ご紹介します。

震災後の分断をこれ以上、広げない工夫が必要。分断から「つながり」を。

村民が先生となり村を伝えていくための地元・地域学の創造。

生活の場としては戻れないかもしれないが、村内に安心して宿泊できる施設が欲しい。

11月13日、復興計画(第5版)策定を行ういいたまでいなる復興計画推進委員会が、福島市で4回目の会議を開きました。会議には「教育部会」「暮らし部会」「医療・福祉・高齢者部会」「農地保全・営農再開部会」の4つの村民部会の代表・副代表も委員として出席し、各部会からそれぞれに必要な対応策や支援などについて提案が行われました。また、村からは、計画を進めている深谷地区復興拠点エリアについて進捗状況の報告および計画の説明がありました。報告を受けた委員からは、「復興拠点エリアに村民部会での意見を反映させ、より具体性のあるものにすべき」等の意見があり、今後の村復興に向けて「村民の声」が重要になることを改めて述べました。また閉会後には、会議を傍聴した村議会議員と委員との意見交換会も行われました。同委員会は、広く意見を集めながら検討を進め、12月20日に5回目の会議を行う予定です。

農業委員会からのお知らせ

《永年勤続農業委員表彰》

11月6日、第59回福島県下農業委員大会において、菅野宗夫会長・古川良一委員・鈴木秀範委員の3名が永年勤続農業委員として、花井利乃主査(現住民課税務係)が永年勤続職員として表彰されました。

永年勤続農業委員は、農地法の適正な処理及び農政や農業の振興等に努め、農業の発展と地域の振興に寄与した在職12年(4期)以上の委員へ贈られます。

営農再開への道

村農業委員会は営農再開に向け、11月20日に村役場本庁舎で同主催の講演会を行いました。

講師の(独)国際農林水産業研究センター万福裕造さんから「放射能汚染と農業再生に向けて」をテーマに、これまでの研究成果や、村の現状と課題について説明がありました。

委員からは鳥獣害対策、除染後の農地管理などの質問があり「課題に向けて一つひとつ丁寧に取り組む」と話がありました。



▲講演会には村農業関係者らも出席



▲(左から)表彰を受けた菅野会長、古川委員、鈴木委員